

乳製品需給等情報交換会議（概要）

日時：令和元年5月31日（金） 13:30～15:00

場所：農畜産業振興機構北館6階会議室

主な意見：

（ホクレン）

- 北海道の生乳生産は前年を上回る予想である。5月下旬に猛暑があったが、朝と夕方は涼しかったので、暑さに弱い乳牛もすぐに回復する見込み。

（東宗谷農業協同組合）

- これから、粗飼料の収穫が始まるが、収穫量については、心配していない。
- 牛の飼養管理技術は上がってきており、より効率的な飼養管理に基づいた経営にシフトしてきている。

（全国消費者団体連絡会）

- バター、脱脂粉乳の安定供給の見通しを聞いて、非常に喜ばしい。しっかりと安定供給していただくために、昨年度と同様に猛暑に備えた対応をお願いしたい。

（中央酪農会議）

- 2歳未満の未經産牛が増えてきている。また、都府県から北海道に預けていた育成子牛も、都府県に戻ってくる時期ではないか。
- 北海道では初妊牛価格が下がってきており、その飼養頭数も増えているため、今後、生乳生産の上振れも十分に予想される。
- 暑熱対策についても周知を図っている。

（卸売業者）

- 脱脂粉乳とバターの安定した需給見通しを聞いて安心した。

（日本洋菓子協会連合会、全国菓子工業組合連合会、全日本洋菓子工業会）

- バターについて、組合員からの不安の声はあがっていないし、需給は安定していると思う。

(日本パン工業会)

- バターの需給は安定している。

(Jミルク)

- 生乳生産量について、北海道では伸びていて、都府県では減少している。市場での影響がないように、状況に合わせた情報を発信していきたい。

(日本乳業協会)

- 当協会では、Jミルクとは別に、独自の需給見通しを立てているが、Jミルクの見通しと同じように、生乳生産量、バター、脱脂粉乳の生産量が増えていく見込みであり、安定供給が期待できると考えている。ただし、天候状況や牛乳乳製品の値上げについてはこれまで通り、注視していくことが必要と考えている。

(以 上)